

令和4年度高志高校後期始業式 校長あいさつ

令和4年10月5日（水）

山内 悟

皆さん、おはようございます。
令和4年度の後期を迎えました。

久しぶりに皆さんにお話をする機会をもらって、私は今、緊張感と気持ちの高まりを覚えています。この気持ちを大切にしながら、校長の仕事に努めていきたいと思っています。

さて、10月1日（土）に各市町の中学3年生の保護者の方を対象に、高志高校説明会を行いました。

私や担当の先生方から、高志高校の教育方針や各種教育活動の内容、進路実績等について話をさせてもらいました。

その中で、生徒の皆さんが行っている課題研究の取組について説明しました。今年の高志高校生の皆さんの取組は、これまで以上に具体性のあるものや深まりのあるものが多く、保護者の皆さんは大変興味を持って聞いてくださっていました。生徒の皆さんが課題研究を通して新しい発見をしたり社会に変革を起こしたりするための努力をしてくれていることが、中学生の保護者の皆さんにも理解してもらえたようで、とてもうれしく思いました。これからも、「探究」や「創造」の営みを、KoAの課題研究だけでなく、各教科の学習や部活動、その他の活動においても続けていってほしいと思います。

保護者の方々からは、たくさんの質問をいただきました。2年次からの学科選択のこと、SSHの課題研究のこと、海外留学や海外進学のこと、部活動のこと、大学進学のこと等の質問がありました。最後に質問をされた方が、次のようなことを言われました。

「高校は、子供で入って大人で卒業するところだと思う。Teaching と Coaching について、学校はどのように考えていますか。」

私は、次のように答えました。

「知識や情報を持っている人がそうでない人に伝授する」という意味では、教員は生徒にTeaching を行う場面が学校では多くあります。しかし、闇雲に「覚えなさい」「やりなさい」と強制して行わせることはありません。

本校では、「あなたは何のためにこれをやるのか」「それをやることによってどうなりたいのか」を問い、「それを実現させるために、いつまでに何にどのように取り組むのか」と生徒自

身に見通しを立てることを促します。生徒がアクションやチャレンジをした後には、それを振り返ることを促し、「計画通りにできたか」「次のステップに活かすためにはどうすると良いか」等、内省や改善を促します。このような意味で、教員は、Coaching というスタンスで生徒をサポートします。

このようなアプローチを続けることで、生徒は主体的に行動を起こすようになり、自分で自分の取組を振り返るようになってくれるものと信じています。

本校では、教員が Teaching と Coaching の両方のバランスをとりながら、生徒の皆さんに対応していきます。

以上が、私がお答えした内容です。

今日から後期が始まります。

各学年において、また個人個人で、行うべき学びの内容や目標とする到達点は異なると思いますが、Teaching と Coaching の両方を通して、皆さんが成長してくれることを願っています。

先生からの Teaching や Coaching を期待するだけでなく、自分自身に対して行う Self-teaching や Self-coaching、さらには、生徒同士で行う Peer-teaching や Peer-coaching を積極的かつ効果的に行うようにすると、皆さんの成長の度合いは格段に高まります。

3年生の皆さん。

志望大学への進学を決めるときが徐々に近づいてきます。今後、模擬試験もたくさんあって、一つ一つの結果が気になるころでしょう。でも、A・B・Cといった判定に心を乱すことなく、目標の実現に向かって精一杯、一心不乱に、そして戦略的に努力を重ねてください。

総合型選抜や学校推薦型選抜、そして一般入試と、受験には様々なパターンがあって、人によって受験のタイプや時期が異なりますが、最後の一人が進路決定を果たすまで、クラス内は真剣に学習に向かう雰囲気を持ってください。

1年生、2年生の皆さん。

1年後、2年後を見越して、学科や類型、科目の選択を適切に行えるようにしましょう。何かを選ぶというのは、何かをあきらめるということでもあります。学科選択、類型選択の際に人のアドバイスを参考にするのはもちろん大切ですが、最後は自分で責任と覚悟を持って選ぶようにしてください。この先、ここというときにしっかり頑張り抜くためには、自分の意思で選んだ道を進むことが極めて肝心です。

来年3月までの6か月間で、皆さんがたくましく成長することを期待して、後期始業式のあいさつとします。